

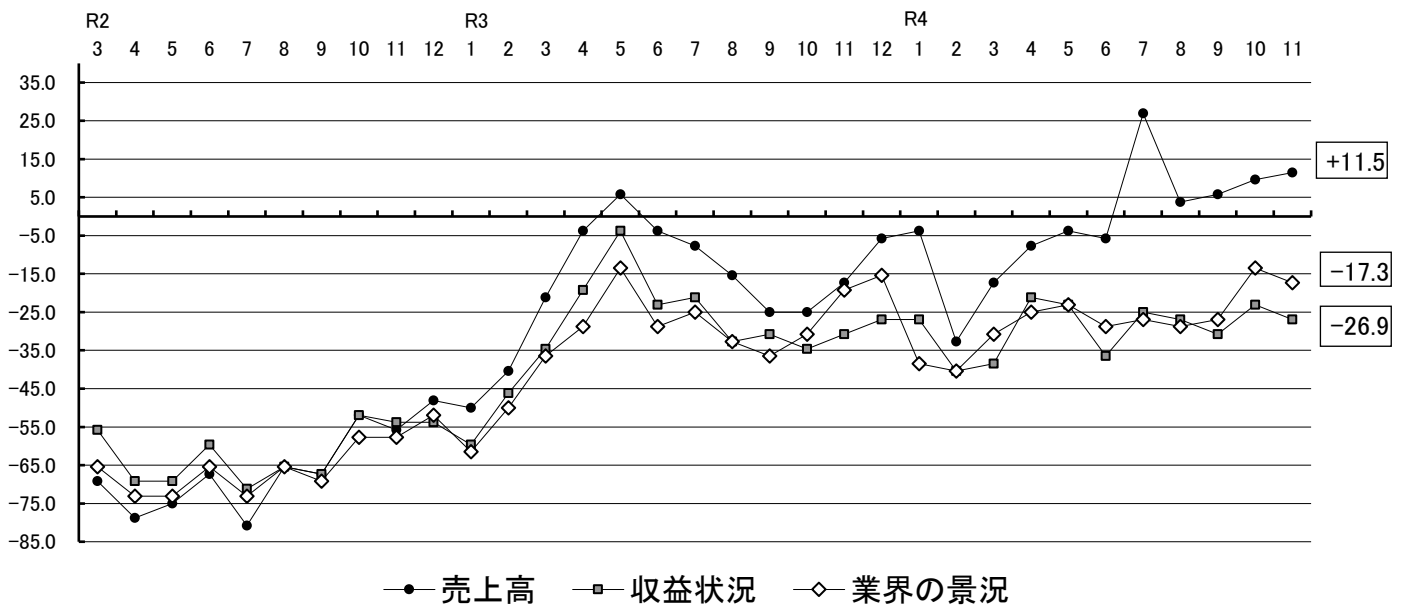
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和4年11月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員(中小企業組合(協同組合、商工組合等)の役職員52名に委嘱)による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標は、売上高は上昇、収益状況と景況はわずかに下降した。
- 製造業で「一般機器」、非製造業で「小売業(飲食業含む)」が依然として厳しい。
- エネルギーや原材料価格の高騰と人手不足の深刻化が長期化し、先行き不透明感が続いている。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	+11.5	+1.9	+1.3	-6.2
収益状況	-26.9	-3.8	-31.1	-2.6
業界の景況	-17.3	-3.8	-22.9	-1.6

売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より1.9ポイント上昇し、+11.5ポイントとなった。全国においては、前月より6.2ポイント下降し、+1.3ポイントとなった。

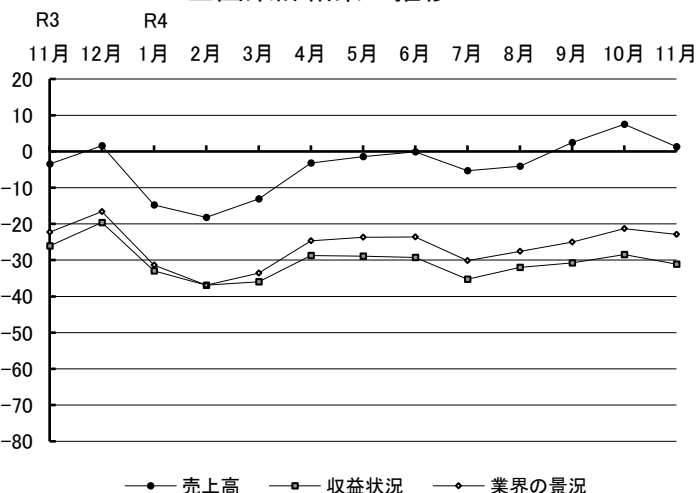
収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より3.8ポイント下降し、-26.9ポイントとなった。全国においては、前月より2.6ポイント下降し、-31.1ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より3.8ポイント下降し、-17.3ポイントとなった。全国においては、前月より1.6ポイント下降し、-22.9ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概況-

11月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中6指標が下降した。主要3指標は「売上高」は1.9ポイント上昇、「収益状況」は3.8ポイント下降、「業界の景況」が3.8ポイント下降となった。

業種別・指標別にみると、製造業全体では売上が増加傾向であるが、エネルギー価格の高騰と人手不足が深刻化している。「鉄鋼・金属」においては、コロナ感染者が増加傾向にあり、仕事量があっても残業負荷や電気代を考慮せざるを得ず、生産体制を整えるのが厳しい状態である。また、「木材・木製品」においても、売上は引き続き増加傾向にあり、販売価格も上昇傾向にある。しかし、人手不足は深刻であり、募集しても人が集まらないため、急遽派遣会社より手配するなどの対応をしている。非製造業においては、「サービス業」で、エネルギー価格の高騰のほかに、競合相手が増えたことにより売上高が減少し収益が悪化したとの声や、若年層の人材確保が困難な状況となっているとの声があった。

当月は、前年同月と比較し大きな変化は見られなかったが、未だに原材料・燃料費などの上昇が続いているほか、一部業種では製造原価が上昇し収益が改善されないといった報告や年明けに仕入先の大幅値上げが予定されているとの報告があり、先行き不透明感が強くなってきている。また、人手不足も深刻化しており、引き続き予断を許さない状況である。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	75.0	50.0	75.0	-25.0	-25.0	-25.0	25.0	0.0	0.0
繊維・同製品	25.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0
木材・木製品	75.0	50.0	50.0	0.0	-50.0	-25.0	25.0	25.0	-50.0
印刷	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
窯業・土石	-75.0	-25.0	50.0	-25.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0	-50.0
鉄鋼・金属	50.0	-50.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	0.0
一般機器	50.0	25.0	25.0	-25.0	-25.0	0.0	25.0	0.0	0.0
製造業	36.0	12.0	44.0	-12.0	-24.0	-12.0	12.0	-4.0	-16.0
卸売業	66.7	0.0	66.7	33.3	33.3	0.0		0.0	33.3
小売業	-28.6	-14.3	14.3	-28.6	-57.1	-57.1		0.0	-42.9
サービス業	-33.3		50.0	-16.7	-50.0	-33.3		-16.7	-16.7
建設業	-20.0		20.0	-20.0	-40.0	-20.0		0.0	-40.0
運輸業	0.0		-25.0	0.0	0.0	-25.0		-25.0	0.0
その他	0.0		50.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-11.1	-10.0	25.9	-11.1	-29.6	-29.6		-7.4	-18.5
全体	11.5	5.7	34.6	-11.5	-26.9	-21.2	12.0	-5.8	-17.3

図表2 【指標別DI値の推移】

	3年 11月	3年 12月	4年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	前月比
売上高	-17.3	-5.8	-3.8	-32.7	-17.3	-7.7	-3.8	-5.8	26.9	3.8	5.8	9.6	11.5	1.9
在庫数量	-8.6	-20.0	-5.7	-8.6	-20.0	-17.1	-14.3	-5.7	-11.4	-5.7	-14.3	5.7	5.7	0.0
販売価格	5.8	11.5	9.6	15.4	21.2	25.0	25.0	23.1	32.7	30.8	30.8	36.5	34.6	-1.9
取引条件	-17.3	-9.6	-5.8	-5.8	-7.7	-7.7	-9.6	-9.6	-9.6	-9.6	-13.5	-7.7	-11.5	-3.8
収益状況	-30.8	-26.9	-26.9	-40.4	-38.5	-21.2	-23.1	-36.5	-25.0	-26.9	-30.8	-23.1	-26.9	-3.8
資金繰り	-15.4	-13.5	-15.4	-26.9	-21.2	-13.5	-11.5	-13.5	-13.5	-25.0	-21.2	-15.4	-21.2	-5.8
設備操業度	-16.0	-4.0	-8.0	-28.0	-12.0	-20.0	-16.0	-20.0	4.0	-12.0	-12.0	4.0	12.0	8.0
雇用人員	-9.6	-7.7	-11.5	-11.5	-5.8	-7.7	-13.5	-13.5	-3.8	0.0	-1.9	-3.8	-5.8	-1.9
業界の景況	-19.2	-15.4	-38.5	-40.4	-30.8	-25.0	-23.1	-28.8	-26.9	-28.8	-26.9	-13.5	-17.3	-3.8

特記事項

情報連絡員報告 (令和4年11月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	和洋菓子製造業	電気料金高騰の影響が今後大きくなる。値上げによる消費の冷え込みが心配である。
	あん類製造業	販売価格を上げた組合員が多く売上高は上昇しているが、原材料の価格高騰・材料不足のせいで仕入れコストは上昇し、利幅は減っているのが現状だ。
繊維工業	縫製業	昨年と比較すると受注は安定しているが、生産数のロットが小さくなり生産性は悪化している。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	今月も売上自体は比較的堅調に推移しており、数字上はコロナ前の水準である。コロナウィルスの感染状況も再びひどくなってきているが、実感としては、過剰に反応するような雰囲気は薄まってきたように思われる。知人の飲食店も、団体客は相変わらず少ないが、小規模の集団客はかなり戻ってきているようだ。繊維関係は全体的にまだ低調だが、徐々にでも回復を期待したい。
木材・木製品	家具・建具製造業	売上は引続き増加傾向にあり、販売価格も上昇傾向にある。しかし、原材料価格・エネルギー価格の高騰により製造原価はそれ以上に上昇しており、収益改善に至っていない。人材不足についても解消に至らず、当面継続するものと思われる。
	建具製造業	上半期の繁忙期で生産はピークとなっている。人手不足は深刻であり、募集しても良い人材は見当たらず、急遽派遣会社より手配した。他の組合員工場も大半が忙しい様子である。
印刷	印刷業	昨年と比較すると多少引合いが増えているが低調である(民需、官公需とも)。材料値上り分の価格転嫁を進めている。
窯業・土石製品	窯業・土石製品製造業	令和4年度上期(4月~9月)の出荷量は7,419,831トンであり、去年同期比で6.2%増加している。
	陶磁器・同関連製品製造業	秋の陶器市が終わり、観光客数の減少に伴い窯元の製造量も減少している。原料の売上也下がっている。令和5年1月より仕入先の大幅値上げがある予定だ。工場の機械の修理も済み製造部門は安定するが、先を考えると新しい機械の購入も思案している。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	10月に続き、自動車関連を中心に生産量の回復傾向は見受けられるが、各社エネルギー関係高騰の価格転嫁ができず、結果として経営体力の低下に苦慮している。再びコロナ感染者も増加傾向にあり、生産体制にも影響が出始めている。人材難の中、年末年始に向けて更なる感染拡大が心配である。機械の修理業なども逼迫しており、機械故障に伴う対応が遅れるなど経済全体が不安定な環境にあると思われる。仕事量はあっても残業負荷や電力費を考えると生産量にも限界がある。社員やその家族の発熱が、コロナなのか風邪なのか、急な休業対応に日々戸惑っている。
	金属製品製造業	売上高増加・販売価格上昇は、材料費の上積み分によることが大きい。
	金属製品製造業	自動車部品・機械設備関連・プレス金型関連のいずれにおいても業況は低下している。主にコロナ禍による売上低下、人件費増加、人手不足、原材料仕入単価の上昇による。
一般機器	一般機械器具製造業	電気料金の高騰で頭が痛い。使用料金は減少しているが、燃料調整額が一年前と比べて△1.48円/kwh→9.39円/kwhと大幅増となっている。今後の上昇が予想されるが対策の施しようがない。

	一般機械器具製造業	前年同月と比較し、売上高は増加傾向の企業が多くなっている。仕入資材は引続き高値が続いており、電気料・消耗品等の値上りも懸念となっている。操業度(稼働)及び収益状況はほぼ前年同様。人手不足が深刻な企業も見受けられる。今後も引続き、新型コロナウイルスの感染状況やロシアによるウクライナ侵攻による化石燃料の上昇・物価上昇といった懸念材料がある。政府の経済対策を注視し、今後の動向に対応していきたい。
卸売業	化粧品卸売業	前月と経済状況に変化はない。取引先よりインボイスの登録番号や説明を求められることが増えた。
	各種商品卸売業	一部業種を除き、売上高・業況等は前年同期に比べ好転とする企業が多い。また、仕入れ単価上昇の影響により利益率は減少とする企業もある。
小売業	食肉小売業	輸入牛及び国産食肉の値上り、水道光熱費の30%上昇で、利益が上がらない。
	中古自動車小売業	中古車流通価格が9月をピークに下降。輸出も、エネルギー価格高騰・物価高・金利上昇など景気後退で弱い。小売も引合いが弱い。
	花・植木小売業	気温も下がり葬儀の件数が増えて来た。花材の高値が続いているので仕入バランスに気を遣う。資金繰りに関しては、コロナ資金の返済を開始している組合員も多く、仕入代金の支払いと合わせて苦しい状況との声も多数ある。
サービス業	自動車整備業	人材確保が困難な状況。特に若年層の採用が困難である。
	ビルメンテナンス業	福祉用具レンタル事業で、競合相手が増え売上高が減少し、収益も悪化している。宅配関連の庫内作業の売上高が減少し、収益もやや悪化している。
	給食センター	電気・ガスなどのエネルギー料金の上昇幅が非常に大きく、安定した収益を確保できない。
建設業	職別工事業	受注額は前年同月並みではあるものの、円安等の影響で前月同様に仕入単価が上昇、収益を圧迫している。新型コロナ第8波の影響による工事受注減が懸念される。
運輸業	貨物自動車運送業	昨年と比べ小口配送がやや増加した感がある。年末に向け配送料の増加を期待する。大口配送については、ほぼ横ばいの状況が続く。地域内においては、日用品・食料品の配送に隔たりがあり(量・区域)、自動車運転者の労働時間を遵守するうえで、他の仕事をするにも車両はあるがドライバー不足によって難しい。
	貨物軽自動車運送業	自動車部品・食料品関連の受注が好調ではあったが、その他の業種からの受注は伸び悩んでいる状況である。インボイス制度の講習会は組合員に好評で、数回に渡り開催している。
その他の非製造業	大谷石採石業	当組合の変化はないが、地域内の飲食業・観光業はイベント(フェスタ in 大谷)の効果で入込客が増えている状況である。